

淀川にすむ天然記念物イタセンパラ



産卵期のイタセンパラ 左;メス 右;オス

イタセンパラはコイ科タナゴ亜科に属する淡水魚で、琵琶湖・淀川水系(ただし、琵琶湖そのものを除く)・濃尾平野・富山平野に分布しています。

昭和49年に天然記念物(文化庁・文化財保護法)に、平成7年に国内希少野生動植物種(環境省・種の保存法)に指定されました。

大阪府内では淀川のワンドに生息しており、その可憐な姿などから“淀川のシンボルフィッシュ”とされています。しかし、近年激減して絶滅の危機に瀕しており、環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類、大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。



イタセンパラの分布



イタセンパラの生息する淀川城北ワンド

貝に産卵するイタセンパラ

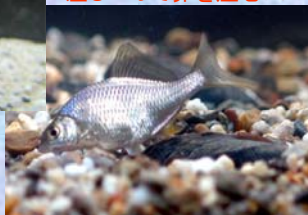
イタセンパラの属するタナゴの仲間は、生きた二枚貝に産卵するという特殊な生態をもっています。産卵の際には必ず出水管から貝の体内に卵を産みこみます。そのため、産卵期(イタセンパラでは秋)には、メスは卵を産みこむための産卵管を伸ばします。一方、婚姻色に染まったオスは貝の周囲になわばりをはって、他のオスを追い払いながらメスの産卵を誘います。メスが産卵すると、オスはすかさず貝の入水管付近で放精し、卵は貝の体内で受精します。



産卵管

繁殖期のイタセンパラのメス

産卵管を貝の出水管に差しこんで卵を産むメス



繁殖期のイタセンパラのオス



イタセンパラが卵を産むイシガイ



イシガイの水管



貝の中に産みこまれた卵



貝の中のふ化仔魚

イタセンパラの繁殖行動



オスのなわばり形成
- オスの貝選び



メス誘い



メスの貝のぞき



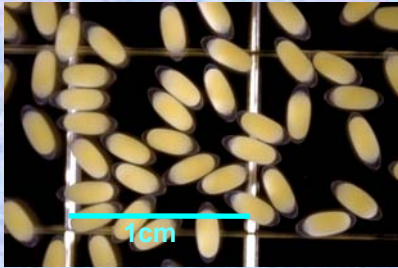
メスの産卵



オスの放精

半年間を貝の中で過ごすイタセンパラ

イタセンパラは受精後約1週間でふ化し、仔魚は貝の中で約7ヶ月をすごして、翌年4~5月に貝の出水管から泳ぎ出ます(浮上)。ふ化直後の仔魚は眼や口、ヒレのないウジ虫のような形をしており、貝から出るまでゆっくりと成長します。貝の中での発育には、低温への大きな温度変化を必要とします。このような生態は、日本の冬の気候に進化適応したものと考えられます。また、貝から出た後の成長は早く、その年の秋には産卵します。



イタセンパラの受精卵



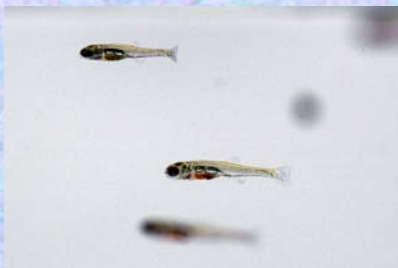
卵からふ化する仔魚



低温要求期の仔魚



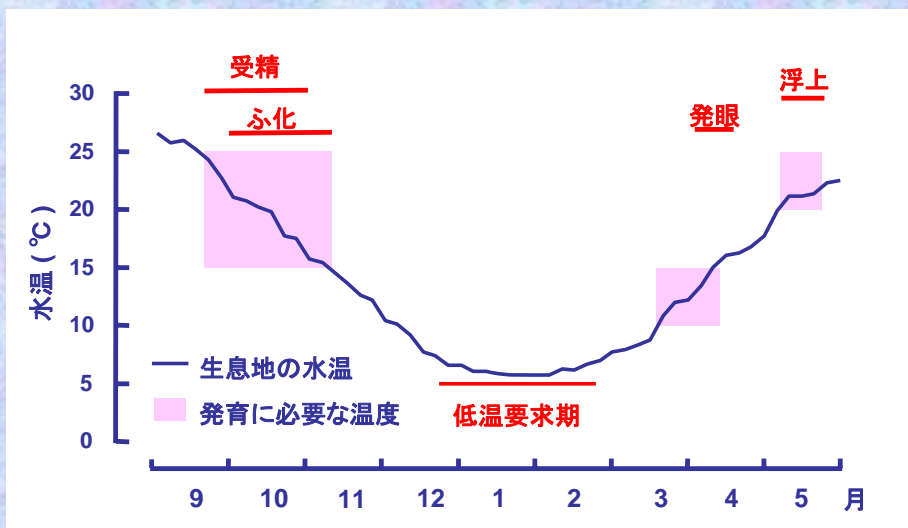
仔魚の成長(発眼)



貝から浮上したばかりの稚魚



成長した稚魚(5月)



生息地の水温変化とイタセンパラの発育

変貌するイタセンパラの生息環境

イタセンパラの生息する淀川のワンドは、タナゴの仲間をはじめ多くの淡水魚が生息する水域ですが、近年は外来種の増加など環境が大きく変化して、在来種が減少しています。イタセンパラやイチモンジタナゴ、アユモドキ、ツチフキ、スジシマドジョウなどは近年まったく姿を見ることができない状況になっています。

淀川ワンドの魚類



イチモンジタナゴ



ヤリタナゴ



シロヒレタビラ



カネヒラ



アユモドキ



スジシマドジョウ中型種



コウライモロコ



ゼゼラ



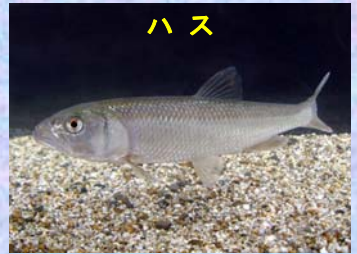
ツチフキ



ワタカ



ビワヒガイ



ハス



コウライニゴイ



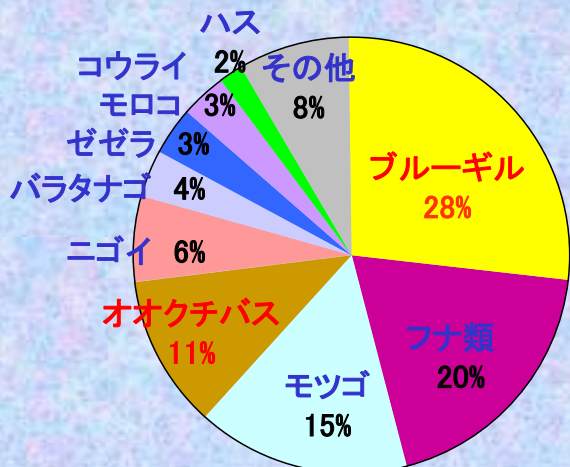
モツゴ



オオクチバス
(外来種)



ブルーギル
(外来種)



淀川ワンドの魚類組成

(2004年水生生物センター調査)

大阪府環境農林水産総合研究所 水生生物センター

〒572-0088 寝屋川市木屋元町10-4 Tel.072-833-2770

Email: aquatic@mbox.epcc.pref.osaka.jp

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/fish/fish.html>